

東京大学デジタル図書館構想（フレームワーク）

～第4の拠点図書館構築をめざして～

東京大学附属図書館は、本学における学習および研究を支える学術情報基盤として、さらには世界の学術コミュニティに奉仕するため活動を続けてきた。また、これまでも図書館に必要とされる多くの機能を構築してきたが、現在急速に進展しつつある教育・研究分野におけるデジタル・トランスフォーメーションに対応するため、デジタル空間を舞台とした新たな機能を持つ「デジタル図書館」の構築が喫緊の課題となっている。

一方で「デジタル図書館」はこれまでの図書館と切り離されたものではなく、両者は共存し相互に機能強化をはかるものである。そのアプローチにより各図書館・室が一層連携することで、附属図書館全体の機能を充実させることができる。このような視点に立ち、「デジタル図書館」は現在の総合図書館、駒場図書館、柏図書館という3拠点に繋がる第4の拠点図書館というべき位置づけで構築する必要がある。

そのため附属図書館では、附属図書館長のもとに「デジタル図書館タスクフォース」を設置し、図書行政商議会と連携して検討を進めている。

ここに示す東京大学デジタル図書館構想（フレームワーク）は、「デジタル図書館」を通してUTokyo Compassで定められた基本理念を具体化させるための骨子である。新たなフィールドとも言えるデジタル空間においては図書館が持ちうる機能・役割も大きく広がり、情報化の進展に伴い変化していく。ここでは「デジタル図書館」が最初の一步を踏み出すにあたり備えるべき事項を提示し、より具体的な「デジタル図書館」の在り方については今後も不断の検討を行うことで実現させていく。

1. デジタル図書館の目的と目標

「デジタル図書館」は本学における30の図書館・室を繋ぐ新たなかたちの図書館であり、インターネット上のハブとなるような機能を持つ。これをデジタル空間に存在する第4の拠点図書館と位置づけ、図書館機能の一層の強化と高度化をはかることを目的とする。またこれにより、本学における教育・研究活動を支える学術情報基盤を時間的・空間的に拡充することで、本学における知的生産力を高めることを目標とする。

2. デジタル図書館の形式

完全にバーチャルな図書館であり、物理的な図書館は新たに設置しない。

3. デジタル図書館のコンセプト

24時間、どこでも図書館 Library 24 hours, anywhere

利用者にフレンドリーなデジタルシフト

誰一人取り残さない図書館（バリアフリー／ユニバーサルデザイン／D&I）

デジタル空間における図書館の論理の明確化

世界の誰もが来たくなる図書館

4. デジタル図書館が備えるべき機能

「デジタル図書館」が本学における教育・研究活動を支える学術情報基盤となるために備えるべき機能を、ユーザー行動を軸に以下に示す。なお、これらの実現においては

- 生成系 AI など最新デジタル技術を活用したサービスの提供
- 障害のある人はもちろん、あらゆる利用者にとって使い勝手の良い制度・サービスの提供（バリアフリーの推進、ユニバーサルデザインの導入等）
- 学内他部署や学内サービス・支援（開発中のものを含む）との連携・協力を必須の要件とする。

ユーザー行動	備えるべき機能	
調べる 探す 求める	● 電子書籍、電子ジャーナル、データベース等の提供 ● 自館所蔵資料のデジタル化と公開 ● 学外にある資料の利用仲介 ● 上記のような資料を含む学術情報の利用プラットフォームの提供	
聞く 訊ねる 相談する サポートを得る	● レファレンス ● 情報リテラシー教育 ● 学術情報ナビゲーション（UI 整備、FAQ 整備等） ● ライティングサポート・学習相談	
交わる	学術情報の交流	● オープンアクセス支援 ● 研究成果発信支援
	人の交流	● 研究交流の場の提供 ● 学習交流の場の提供
研究する	● 研究データ管理支援 ● オープンサイエンス促進・支援 ● 文献管理	
新たな気づきを得る	● 学術情報資源のキュレーション（展示） ● 学術情報のリコmend	

5. デジタル図書館の開館へのスケジュール

2030 年 4 月を目標とするが、サービス開始可能なものは部分的に前倒しする。

東京大学デジタル図書館構想（フレームワーク）～第4の拠点図書館構築をめざして～

デジタル図書館とは：デジタル空間を舞台とし、新たな機能を持つ図書館

（イラスト版）

教育・研究分野における一層のデジタル・トランスフォーメーションに対応するため、デジタル図書館の構築が求められている。



デジタル図書館の目的：図書館機能の一層の強化と高度化をはかること

デジタル図書館の位置づけ

- デジタル図書館は、東京大学にある30の図書館・室を繋ぐ新たな図書館
- デジタル図書館と既存の図書館は共存し相互に機能強化をはかる
- 3拠点に繋がる、第4の拠点図書館と位置付ける

デジタル図書館の特徴

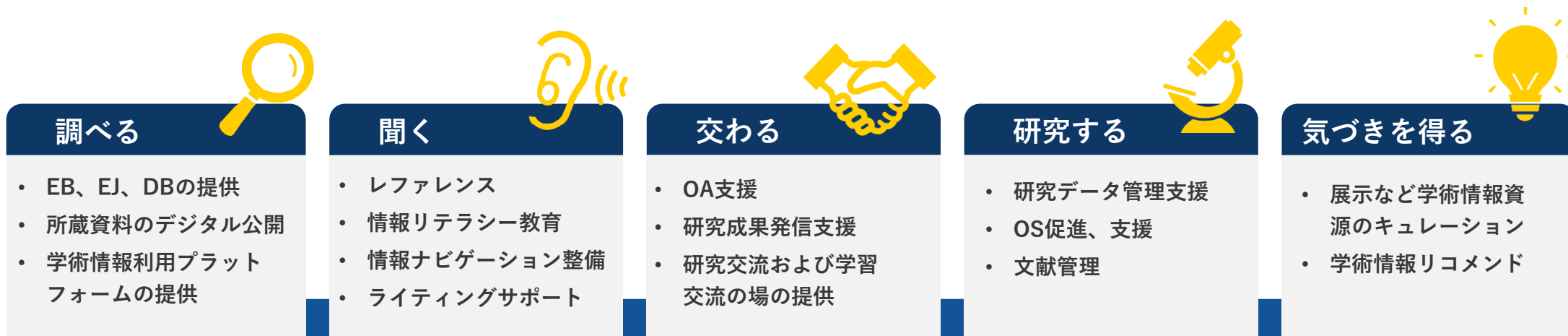
- 完全にバーチャルな図書館
- 24時間、どこでも図書館
Library 24 hours, anywhere

創出すべき効果

UTokyo COMPASS 2.0

東京大学における教育・研究活動を支える
学術情報基盤を時間的・空間的に拡充する
ことで、本学の知的生産力を高めていく

■ ユーザ行動からみる「デジタル図書館」が備えるべき主な機能



【上記の機能を実現するために必須となる要件】

- ・ 生成系AIなど最新デジタル技術を活用したサービスの提供
- ・ 障害のある人はもちろん、あらゆる利用者にとって使い勝手の良い制度・サービスの提供（バリアフリーの推進、ユニバーサルデザインの導入等）
- ・ 学内他部署や学内サービス・支援（開発中のものを含む）との連携・協力

■ 東京大学デジタル図書館のこれから

- デジタル図書館は**2030年4月の開館**を目標とする
(サービス開始可能なものは部分的に前倒しする)
- 本構想はデジタル図書館を通して**UTokyo Compassの基本理念を具体化させるための骨子**であり、具体的なデジタル図書館の在り方は、情報化の進展等も見据え不断の検討を行っていく